

INMP

Lubova



MUSEUMSFORPEACE.ORG

SUBMISSIONS

INMP 通信 38号(2023年4月)

原稿の締め切りは、2023年2月1日です。

投稿を歓迎します。

英文記事(500ワード以内、Wordファイル保存)日本語は300語以内

出版物・発表物(250ワード以下のWordファイル)。

高解像度のjpg画像を別ファイルで添付してください。

オリジナルアート作品、詩、写真

メールでのお問い合わせは、**Kya Kim (inmp.news@gmail.com)**までお願いします

です。INMP通信は、英語、日本語、スペイン語で読むことができます。

〈編集チームのメンバー〉

編集長 Kya Kim

編集委員 Robert Kowalczyk

編集委員 Lucy Colback

レイアウト(pdf) Kya Kim

レイアウト(web) Mona Badamchizadeh

ソーシャルメディア Mari Kumura

INMP事務局 Kazuy Yamane 山根和代

技術面での助言者 Roy Tamashiro

和訳担当者：赤松敦子、狩俣英美、寺沢京子、山根和代

日本語版編集：安斎育郎、山根和代

本ニュースレターに掲載された記事は、執筆者の見解を表したものであり、必ずしも編集チームや平和博物館国際ネットワークのメンバーの見解ではありません。

INMP 通信を読みたい方は、下記を
クリックして下さい。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfZi-40V6xAXNOFHgzBdByxWGm4Ez5pSANf2Dm_77mxw9w2-g/viewform



2022年9月

目次

カバーアート Luba LUKOVA (こよる"bird")

乗松聡子さんからのメッセージ.....5

ルーバルコヴァ：正義のデザイン----- 6

第11回平和のための博物館国際会議----- 7

INMP30周年記念行事-----9

ハンス・ペーター・クルテン (1929 - 2022)-10

紛争の現場：文化遺産の保護か、平和構築のための空間か?..... 13

「平和のための」戦争遺産？必然的な二面性-14

文化遺産と平和構築のつながりを育む「平和のための遺産」の活動----- 15

ヒロシマへのオマージュ、命へのオマージュ-18

相互理解のための「平和のための博物館」を支援するために-----19

ディープ・サウス・ミュージアムとアーカイブス構想：タイで紛争が続く地域における平和のための博物館の始まり----- 21

オーストラリア戦争記念館と境界戦争..... 22

ひめゆり平和博物館..... 23

デイトン平和ミュージアム、新しい場所で開館-24

ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館-26

沖縄県平和祈念資料館..... 27

ヴィクトール・フランクル博物館 in ウィーン---29

731部隊跡地の保存と展示..... 29

ゲルニカ平和博物館の企画展「戦時下のヨーロッパにおける女性と子ども(1914-1949)」を通じて連帯を想起する..... 31

バーチャル展示会”夢を見る者は預言者と呼ばれる”。東アフリカの先住民の心の奥深くを歩き、平和の源を探す-----35

最古の平和----- 36

核時代の芸術と市民運動----- 37

芸術を通して地域共同体の対話の場を作る----- 40

オンライン展示と原爆被爆者ブックレット-----42

デシデリウス・エラスムス「戦争は経験のない者にとっては甘いものだ…」-暴力と戦争に対する抗議----- 43

“世界が核兵器にノーと言うことを決めた日”-44

ピースデーのための教育活動----- 44

涙から希望へ----- 45

国際平和デーの本日、第37号をお届けできることを大変嬉しく思います。このページで紹介されている取り組みは、大きな困難に直面しながらも、勇気と愛を持って前に進んできた世界中のピースビルダーたちの感動的な決意を反映しています。アジア、中東、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、東南アジアなど、私たちのコミュニティは、暗い場所に光をもたらしています。

このページでは、「芸術は人間の存在の中心であり、道徳と創造性は一致していると固く信じている」と確信しているアーティスト、ルーバルコヴァの印象的なシリグラフを紹介します。

また、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン博士は、「若い頃に第二次世界大戦を経験し、将来の戦争を防ぐために最大限の努力をしよう」と決意した世代に属し、平和博物館がその重要な目的を推進するための重要な教育機関であると考えていた」ハンス・ペーター・クルテン氏に敬意を表しています。

さらに、テヘラン平和博物館が主催する12月6日のウェビナー「Narrating Peace」と第11回国際平和博物館会議の準備として、ルーシー・コルバックの論文はこのテーマに関する談話のための有意義な基礎を打ち立てるものです。ミュージアムの語り口は、しばしば我々の相違を固定化し、「善」と「悪」が明確でない場合であっても、ある側を擁護することを選択する危険性がある」と。

また、今号では、ヴィクトール・フランクルの「ONE Humanity」（肌の色や政党の色など、あらゆる多様性を超越した統一性）の探求や、スワヒリ語の「Utu」（祖先が人類に与えた尊厳・・・腐敗した当局も警察の警棒も破壊できず、暴力も貧しい者から奪うことができない伝統）をソムジ博士が説明していることに気付かされるでしょう。

このニュースレターが、国際的な平和構築者のコミュニティを強化するための情報交換の拠点となるよう、皆さまからの寄稿と読者の皆様に感謝をしながら、私たちはこれからも活動を続けていきます。2023年4月に第38号をお届けできることを楽しみにしています。

編集長キヤ・キム



INMP について

平和のための博物館国際ネットワーク (INMP) は、平和な世界の構築に取り組むミュージアムと関連プロジェクト、そしてそれらを支援する組織や個人からなるグローバルなコミュニティです。

私たちは、平和のための教育を推進し、平和の文化を構築し、地球規模の環境平和を促進するために、平和博物館 (および関連組織) 間の知識、資源、模範的な活動を特定し、共有し、普及させるために活動しています。

INMP NEWSLETTER EMAIL

inmp.news@gmail.com

INMP WEBSITE

<http://museumsforpeace.org>



@museumsforpeace



@museumsforpeace



@inmp_museums_for_peace

乗松聡子さんからの
メッセージ

INMP メンバー、そして INMP ニュースレターの読者の皆様、こんにちは。

東京からご挨拶申し上げます。INMP ニュースレター第 37 号の発行、おめでとうございます。パンデミックによる規制が続く中、Kya Kim さんをはじめとする編集チームの献身的な努力と、世界各国からの寄稿者の皆様のおかげで、INMP Newsletter は私たちを繋ぎ、情報を提供してくれています。

私と INMP とのつながりは、2006 年にまでさかのぼります。日米の大学生による広島・長崎への平和学習ツアーに参加し、立命館大学国際平和ミュージアムから旅程をスタートさせたのです。そこで私は、平和のための博物館の専門家であり、国際的な平和のための博物館運動に尽力されている藤岡惇さん、安斎育郎さん、山根和代さんと知り合うことができました。

今回の平和ツアーには、アメリカン大学(ワシントン D.C.)と立命館大学の 2 つの大学の学生や教員が参加しました。私の主な役割は、アメリカからの参加者のために被爆者の体験談を英語に訳したり、アメリカン大学のピーター・カズニック教授の講演を日本語に訳したりすることでした。私の役割は次第に講師へと広がり、2020 年(コロナパンデミックによって中断されるまで 15 年間続きました)。

プログラムは、国際平和ミュージアムの見学の後、報告ディスカッションから始まりました。アメリカの学生が多くにとって、「平和のための博物館」という概念自体が非常に新鮮だったようです。

日本軍がアジア近隣諸国に対して行った侵略戦争での残虐行為を批判的に考察する、国際平和ミュージアムのような博物館が日本にあることに驚きの声が上がりました一方、日本から被害を受けた国にルーツを持つ学生にとっては、これらの展示は必ずしも十分とは言えませんでした。プログラムの終盤、私たちは長崎にある岡まさはる記念長崎平和資料館を訪れました。ここでは、朝鮮人原爆被害者の体験をはじめ、南京大虐殺、731 部隊、日本軍「慰安婦」などの日本の残虐行為が語られています。

日本の多くの平和のための博物館が、アメリカの空爆や日本人に与えた戦争被害に焦点を当てるのに対し、この博物館は、1870 年代から 1945 年の大日本帝国崩壊までの 70 年以上にわたる植民地主義、帝国主義における日本の悪行を明らかにすることに力を注いでいます。学校では日本軍が日本国外で行ったことを教えないので、そこで展示されている資料の多くは、日本の学生にとって初めてのものでした。

私にとってこのツアーで最も素晴らしいと思ったのは、バックグラウンドも予備知識も全く異なる生徒たちの心に平和のための博物館が与える影響を目の当たりにしたこと、そして戦争体験者に会い、戦争が人間に与える恐ろしい影響を学ぶという最も強烈な体験を通じて、すぐに親しい友人となった学生たちの間でその影響が共有されていることでした。過去の参加者の多くが「人生を変えるような経験だった」と語るこのツアーに 15 年間参加し、私の平和のための博物館への思いはますます大きくなったのです。現在、平和のための博物館の専門家と、平和のための博物館を愛する人たちの国際的なネットワークである INMP の共同コーディネーターを務めることができ、大変光栄に思っています。ニュースレターをどうぞお楽しみください。

INMP 共同コーディネーター乗松聡子

乗松聡子さんは、イラチュエ・モモイシオ・アストルキアさんと共に、「平和のための博物館国際ネットワーク」のコーディネーターである。INMP コーディネーターへの連絡は、INMP.coordinators@gmail.com です。



正義をデザインする

ルバ・ルコヴァ Luba Lukova

2021年10月8日から2022年3月22日まで、オハイオ州シンシナティにあるスミソニアン関連機関、国立地下鉄道自由センターで開催された展覧会で、現代アーティスト Luba Lukova の *Designing Justice* の作品から、人間性と不公平さの問題を探りました。

ルコヴァの55点のシリグラフ作品群は、強力な視覚的メタファーと大胆で簡潔なシンボルを用いることで、さまざまな社会的・文化的トピックに取り組んでいます。戦争と平和、検閲、移民、所得格差、汚職などがテーマとして取り上げられています。

複雑な社会問題に対する解説を表現することは、ルコヴァが長年にわたって注力してきたことです。それは、芸術は人間の存在の中心であり、道徳と創造性は一致するという彼女の確固たる信念に基づくものです。ルコヴァの作品は、人間の条件に関する本質的なテーマであれ、時事問題を簡潔に視覚化するものであれ、紛れもなくパワフルで示唆に富んでいます。



ルバ・ルコヴァ、収入の格差：シリグラフ

それぞれのイメージの根底にある視覚的な要素を紐解いていくと、作家のメッセージの奥深さが無意識のうちに深く染み込んでいます。そして、世界各地で起きている社会問題は、善意ある個人の努力によって解決され、変化していかなければならないことを根本的に思い知らされるのです。ルコヴァのイメージは、私たち全員が世界を良くする力となるためのインスピレーションを与えてくれるのです。

Luba Lukova と彼女の作品についての詳細は、アーティストのウェブサイト (www.lukova.net) をご覧ください。



ルバ・ルコヴァ：正義をデザインする。

ナショナル・アンダーグラウンド・レイルロード・フリーダム・センター(オハイオ州シンシナティ)



第11回平和のための博物館国際会議 未来のための平和を維持する博物館

2023年8月14日～16日スウェーデン・ウプサラ+、8月17日～19日ノルウェー
[HTTPS://UPPSALA2023.SE](https://uppsala2023.se)

コロナ・パンデミックが発生した2年間の困難な時期を経て、日本の仲間たちが企画した第10回国際平和博物館会議をオンラインで祝うことができた後、2023年にスウェーデンのウプサラでINMPの第11回国際会議に再び集うことになりました。

会議のテーマは「未来のための平和の番人としての博物館」で、これまでの多くの取り組みと大きく変化する未来の目標が融合されます。「平和の家」、ウプサラ市、INMPなどの協力のもと、社会の発展や時代の問題を含む現在の課題を提示し、国際平和への歴史の橋を長く、広くすることを目指します。

世界は急速に変化しており、平和と民主主義の両方が十分に試されています。平和のための博物館は、人権の擁護者として、また、最も裕福な人々から貧困に苦しむ多くの人々に至るまで、持続可能で公正な社会のための教育者として、これまで以上に大きな役割と責任を担う必要があります。この会議では、3つの主要な声明を中心に展開されます。様々な講演、ワークショップ、セミナーが、これらの事柄をより詳しく取り上げます。

1. 歴史を現代に生かす

ウプサラの千年の歴史の中で、私たちはウプサラ市とスウェーデンの平和に関する物語を生かしたいと思っています。スウェーデンは、200年以上戦争がなかったという平和の世界記録を誇りとしています。ウプサラはしばしば「スウェーデンの平和都市」と呼ばれています。

一国の中で、これほど長く平和を維持するために重要な要素は何でしょうか。スウェーデンやウプサラの経験から、何を学ぶことができるのでしょうか。また、現在の学術団体や市民社会組織は、平和に関連する問題にどのように取り組んでいるのか、そして私たち博物館はその活動からどのように学ぶことができるのでしょうか。歴史的な出来事と現在の社会を結びつけることで、将来の紛争や暴力を防ぐために過去から何を学ぶことができるのでしょうか。

未来の世代が過去について学ぶのではなく、過去から学ぶためにはどうすればよいのでしょうか。広く一般に受け入れられ、社会の発展をリードする存在であり続けるためには、平和のための博物館の定義を常に広げ、深めていく必要があるのでしょうか。

10年後、平和のための博物館はどのような姿をしているのでしょうか。

2. 平和教育

平和の家(Fredens Hus)は、平和のための博物館であり、人権と社会の持続可能性のための社会的要因としての平和を、現代的に捉えて活動する非営利組織である。展示、教育活動、プロジェクトを通して、「平和の家」は子どもたちや若者、そして一般の人々への平和教育に力を注いでいます。

この会議を通して、参加者は若者との平和教育を間近で体験し、これらの効果的な方法がどのように利用され、拡大されるかを目の当たりにすることになります。重要な問題が残されています。私たち平和博物館は、平和関連の学術機関とどのように協力し合えるのでしょうか。重要な研究成果を展示で一般に紹介するには、どうすればいいのでしょうか。平和を願う博物館が、持続可能で印象に残るインタラクティブな手法、展示、活動を、より広い規模で生み出すために、研究はどのように役立てることができるのでしょうか。

3. 未来へのピースキーパー

現代の平和博物館は、平和の歴史を保存し、関連付けるとともに、未来に向けて平和を維持するために重要な役割を担っています。戦争がなかったことに関する物語だけでなく、人権や社会の持続可能性に関する物語も伝える必要があるのです。このような問題に関して、世界の博物館は互いに何を学ぶことができるのでしょうか。次の世代のために、どのように平和の概念を満ち、広げていけばよいのでしょうか。また、長期的な平和を実現するために、若者を集めるプロジェクトや活動をどのように作ればよいのでしょうか。

会議期間中は、若者のためのプロジェクトや若者とともに作り上げるプロジェクトが紹介される場が提供されます。私たちは、博物館、組織、市民のイニシアチブに、最高の事例を提出し、共有することを奨励し、インスピレーションの「バイキング料理」を作ることを目的としています。

夏以降、論文募集、会議に参加する著名人、プログラム、アクティビティ、ノルウェーへのエクスカーションなど、より詳しい情報をニュースレター、会報、ウェブサイトなどでお伝えしていく予定です。

ぜひ、2023年のカレンダーにこれらの日程を記入し、ウプサラにお越しください。

詳細については、<https://uppsala2023.se/>をご覧ください。

連絡先：

inmp.coordinators@gmail.com)

INMP2023年会議ワーキンググループ



平和のための博物館で平和を語る
(2022年12月6日開催)
平和のための博物館国際ネットワーク
30周年記念行事

テヘランでのハイブリッド
ウェブセミナー

モナ・バダムチザデー
MONA BADAMCHIZADEH

平和のための博物館国際ネットワーク (INMP) の 30 周年を記念して、博物館会員であるテヘラン平和博物館 (TPM) は、2022 年 12 月 6 日 - 15 時 GMT+4 時 30 分に、このネットワークの設立からの歴史と成果を独特の見地から紹介するハイブリッド・ウェブセミナーを開催します。

過去 30 年間、INMP は博物館の活動を通じて平和を促進する唯一のネットワークに成長し、多くの博物館が平和のために活動する方策を考えるための様々な刺激を与えてきました。

このウェブセミナーでは、INMP の歴史や平和のための博物館の物語について理解を深めるだけでなく、テヘラン平和博物館について、その歴史、目標、概要、作品について詳しく知ることができます。

このウェブセミナーは 3 部構成になっています。

1) INMP の紹介。このネットワークがなぜ、どのように設立されたか、またどのように平和のための博物館にインスピレーションを与えてきたかについて概説します。

2) INMP の博物館会員としての TPM の紹介。設立の経緯、TPM でのボランティア活動、実績などを紹介します。

3) INMP の現在および将来のプロジェクトについて紹介、及び INMP の発展の展望と新しい会員を紹介します。

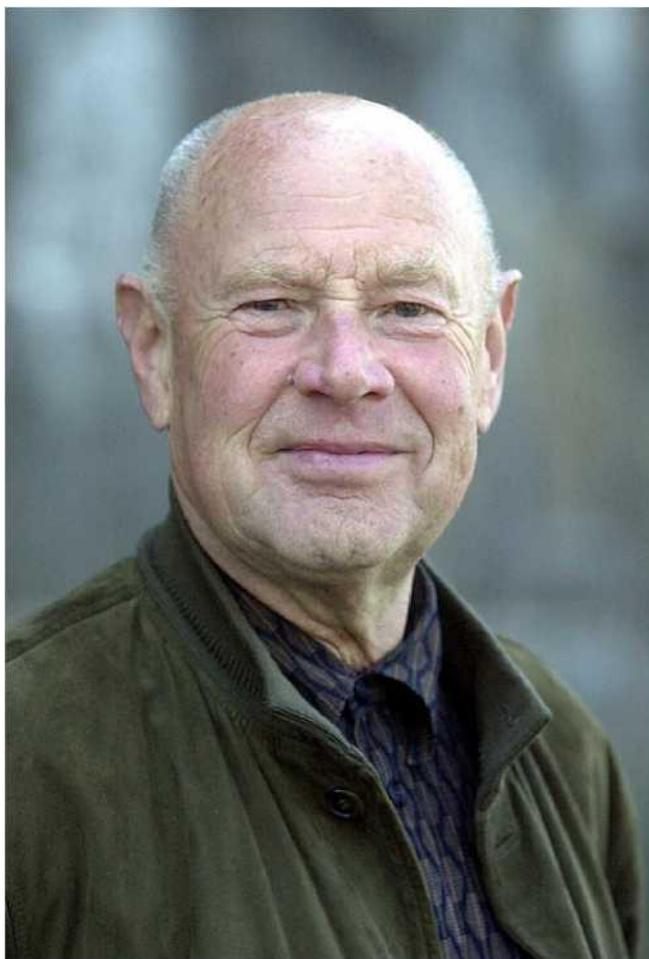
(翻訳：赤松敦子)



Tehran Peace Museum

テヘラン平和博物館の詳細については、ウェブサイトをご覧ください。





ハンス・ペーター・クルテン

HANS PETER KURTEN (1929 - 2022)

ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン PETER VAN DEN DUNGEN

レマーゲン橋平和博物館 (Friedensmuseum Briicke von Remagen) を設立し、館長を務められたハンス・ペーター・クルテン Hans Peter Kurten 氏が、今年 3 月 6 日に亡くなられたことに哀悼の意を表します。ライン川 (ボン近郊) に架かるこの有名な鉄道橋は、第一次世界大戦中に建設され、第二次世界大戦中の 1945 年 3 月 7 日に米軍兵士に占領され、その 10 日後に崩壊しました。クルテン氏は、レマーゲンの川岸に立つ橋脚の中に、記念碑と警告として平和博物館を作りたいことを思いつきました。1978 年 3 月 7 日 (橋の占領から 33 年後)、彼はこの計画を実行するために独立した協会を設立し、独創的な募金活動を開始し、大きな成功を収めました。彼は、崩壊した橋の残骸を小さな石の記念品に加工し、ガラスに入れ、小さな証明書をつけて、販売したところ多くの人々が熱心に買い求めました。



ハンス・ペーター・クルテン氏の写真は https://www.aw-wiki.de/index.php/Hans_Peter_Kurten#/media/File:Kurten_Hans-Peter.jpg をご参照下さい。博物館の写真は <https://bruecke-remagen.de/ihrbesuch/> をご参照下さい。

そこから得られた収入が多額だったので、2年後には博物館を開館することができたのです。以来、世界中から80万人以上の来館者を迎えています。

クルテン氏はまた、この平和博物館近くにあるドイツ人捕虜収容所跡地に記念館を建てました。この収容所には、第2次世界大戦末期に約30万人のドイツ人捕虜が悲惨な状態で収容されていたのです。彼は、元収容者同士が再会できる会を企画し、大変感謝されました。また、橋の占領に関わった米軍兵士の再会の会も企画し開催しました。クルテン氏は長年にわたり、年に2回博物館通信を編集・発行し、博物館に関する発展の状況に加えて、上記の行事についても報告しました。彼はいくつかの本も書いており、その中には、2000年前にローマ人によって築かれた、愛する街についての人気のある歴史書も含まれています。2012年11月号のINMPニュースレター(No.4)に、彼の著書の一つである『橋の建設』“Building Bridges”の書評が掲載されています。同号には、レマーゲン橋平和博物館訪問の報告が写真付きで掲載されています。(詳しくはこちらをご覧ください。)

http://faculty.webster.edu/theglobalforum/MuseumsForPeace/wp-content/uploads/2017/06/INMPNewsletter_04_Nov2012.pdf

クルテン氏は初期の頃から、INMP国際会議にも参加しました。

このような機会に彼に会った人、あるいは彼の博物館を訪れた人は、彼の優しさと温かさ、そしてエネルギーと熱意を懐かしく思い出すことでしょう。彼は、若い時に第二次世界大戦を経験した世代であり、将来の戦争を防ぐために最大限の努力をすることを決意し、平和博物館がその重要な目的を推進するための極めて重要な教育機関であると考えた世代でした。

地元紙(*General-Anzeiger*、3月8日付)の死亡記事は

https://ga.de/region/ahr-und-rhein/remagen/remagens-ex-buergermeister-hans-peter-kuerten-ist-tot_aid-66918525

にあります。詳しい経歴は

https://www.aw-wiki.de/index.php/Hans_Peter_K%C3%BCrten#/media/File:K%C3%BCrten_Hans-Peter.jpg

にあります。このサイトには2つの短い動画へのリンクが含まれています。その動画の1つは2005年に制作されたもので、博物館に関するクルテンへの素晴らしいインタビューです。また、レマーゲン橋と博物館の歴史についての映画のいくつかの場面の抜粋も含まれています。長い動画(14分)は、2019年8月22日に行われた、レマーゲン市から前市長に名誉市民権を授与する式の様子です。

これらの記事と動画はドイツ語ですが、橋や博物館に関する英語の情報は、

<https://bruecke-remagen.de/?setlang=en> にあります。



ルバ・ルコヴァ、平和、シリグラフィ

ARTICLE

紛争の現場-文化遺産の保護か、平和構築のための空間か？

マイダー・マラナ
MAIDER MARANA

紛争に直面した社会における記憶形成や社会的結束の再構築を促すための文化遺産の重要性については、広く深い文献の一群が存在する。紛争の種類は多種多様であり、また記憶のプロセスにおいて組み込まれる場所のカテゴリーも異なるため、「紛争の場所」を通して私たちが何を理解するかを網羅的にリストアップすることは不可能である。虐殺や大量殺戮が行われた場所、墓地、刑務所、戦場、軍事施設、象徴的な建物、壁画、さらには博物館や公文書館など、紛争を経験した人々の物や証言が保管されている空間も存在する。

紛争跡地へのアプローチの難しさを示すもう一つの例は、それらの名称が複雑であるということである。例えば、暗い遺産、困難な遺産(Logan and Reeves, 2009) 紛争の場所、紛争後の場所(克服を強調した場合)、記憶の場所(Nora,1992)、痛みと恥の場所(Logan and Reeves,2009)、トラウマ的記憶の場所(Arrieta,2016)、負の記憶の場所などが挙げられる。このような名前付け、および付け加えた名前の長いリストは、これらの場所に共通の認識でアプローチすることの難しさを示している。おそらく最も共通した考えとしては、苦しみや紛争に結びつく場所が非常に感情を揺さぶり、多くの政治的な問いを投げかけるという点であろう。

そのような場所の重要性は、記憶や遺産解釈の専門家によって広範囲に擁護されてきた。しかし、公的な法律により遺産の重要性を認識し、法的な保護を確保することは困難であった。「紛争跡地の遺産」を保護すべきカテゴリーとして指定することが難しいのは、遺跡の多様性に加えて、年代やテーマが特定されていないことが一因である。

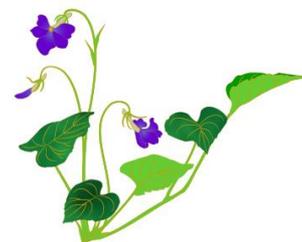
一般的に、法的保護に焦点を当てた考察や行動よりも、記憶空間の解釈をめぐる研究がより発展している。文化遺産保護のための法制度は、遺産をめぐる新たな社会的ニーズ、関心、価値観に対応するには不十分な場合が多い。

既存の規制は必ずしも「新しい」遺産の登録や概念の拡張を妨げるものではないが、しばしば目に見えない障害を生み出し、法律の起草や承認時には存在しなかった別の視点を受け入れ、統合することを難しくさせているのである。

世界中の紛争に苦しんだ場所の例は、訪問者に語りを提示する必要性を示している。その語りは、矛盾や多様な声を強調する人道的なアプローチから生み出されなければならない、また常に犠牲者の尊厳や権利を尊重しなければならない。同様に、その解釈は、その場所を保護するために使用されるあらゆる法的または規範的な方式によって決定付けられる。文化遺産、記憶遺産、または同様の場所として指定されることは、その後の発展に影響を与えるため、紛争跡地の遺産保護のための基準について分析を続け、有効な解決策を提示することが重要である。人権侵害や紛争に関連する遺跡は、人の感情に訴える大きな作用や政治的でイデオロギー的な利用により、その遺跡自体が多様な解釈の対象となることは否定できない。遺産という観点から見た記憶とその管理の問題は新しいものではないかもしれないが、それでもこの議論は現在も続いており、その解決はすべての紛争に苦しむ社会の未来に影響を与えるものである。

Maider Marana は、現在バンケティック財団の理事を務めています。

(翻訳：狩俣英美)



「平和のための」戦争遺産？ 必然的な二面性

カーステン・パルダンニミュラー
ケンブリッジ・ヘリテージ研究センター

CARSTEN PALUDAN-MULLER

平和のための博物館は、最後に平和をもたらすための解決策なしに、平和について意義深い語りをすることはできない。戦争の種は平和な時代に蒔かれ、平和を実現し維持しようとする意志は戦争の記憶によって育まれる。

いくつかの平和のための最良の博物館やモニュメントは、かつて平和が最も失われていた場所そのものである。例えば、第一次世界大戦の戦場となったヴェルダン、最初の核爆弾が投下された広島街、そして、未来のどこかの時点でマリウポリー2022年のロシアのウクライナ攻撃で完全に破壊された街などが含まれる。

遺産は、決して固定的なものではない。物理的な構造物として、あるいは物語として存在するものでもない。

第一次世界大戦後の数十年間を生き延びたフランス人にとって、ヴェルダンは愛国的犠牲が切り裂かれた風景であった。20世紀後半になると、その変貌した風景は新たな環境のバランスを取り戻した。世代と記憶の移り変わりとともに、かつての戦場はヨーロッパの平和と和解のための明白な記念碑となり、戦争の悲劇、そしてその悲劇に至る道のりを示す象徴となったのである。

記憶とは、集団的なものであると同時に個人的なものであり、その形が変わりやすい。もし私たちがすべてのことを記憶していたら、蓄積された情報の混沌の中で秩序を見失ってしまうだろう。だから、個人的なレベルでも社会的なレベルでも、私たちは特定の出来事を記憶し、他の出来事を忘れることで、私たちが誰で、どこから来て、どこへ行くのかという、多少なりとも首尾一貫した物語を、意味の通った選択だとして結論づける必要があるのだ。

この「編集」の仕組みは、政治的な搾取にも利用される。自らの「歴史的権利」を強調し、「他者」の権利をないがしろにする語りや、「他者」の業績と尊厳を否定し、自分たちの「失われた黄金時代」を祝う物語は、共通の敵を定義することによって、国内の政治的支持を集めるために利用されることがある。多くの戦争は、「相手側」に対する集団的思考を閉ざすような語りからはじまる。「私たちは正しく、彼らは間違っている」と訴える語りや、「他者」と対立し、自分たちの集団の「正当な理由」を決して疑わないという、偽りの安心感を与えてくれる語りは、権力とあやまった信念の破滅的な道具である。だからこそ、平和を守るための努力として、歴史を別の視点で解釈することが不可欠なのである。

平和博物館は、過去と現在において、敵対する両者が相互理解や尊敬を持つための架け橋となる重要な役割を担っている。平和博物館は、戦争がどのように始まり、戦争がどれほどの苦しみをもたらすかを理解する手助けをしなければならない。ある特定の条件下において、人間は戦争を起こす行動をとる可能性があることを認めること。そうすることで、その条件を回避、あるいは緩和する努力を継続することができるのである。

私たち人間は不完全な生き物であり、より良い一面を保つために、自分たちの行動能力の範囲を知り、何が危険な行動を誘発するかを理解する必要がある。人間同士の平和は決して当たり前のもではない。平和博物館はそのような理解を促さなければならない。

カーステン・パルダンニミュラーは考古学者で、コペンハーゲン大学で博士号を取得した。デンマークとノルウェーの博物館、遺産管理、研究機関において様々な要職を歴任。

(翻訳：狩俣英美)



ベイト・ペイルート、または「ペイルートの家」。1924年に建てられたこの建物は、内戦で一部が破壊されました。現在は博物館として保存され、戦争を告げる長い記憶の歴史の一部として残すことを試みている。著作権者

「文化遺産と平和構築のつながりを育む『ヘリテージ・フォー・ピース』の活動」

イズベル・サブリーネ
ISBER SABRINE

ヘリテージ・フォー・ピース (HFP) は、武力紛争時に文化遺産を保護・保全するすべてのヘリテージワーカーを支援することを使命とする非営利組織です。国際的な遺産保護団体である私たちは、文化遺産とその保護が、対話のための共通の基盤であり、平和を強化するためのツールとして利用できると信じています。私たちは、宗教や民族を問わず、すべての人々が対話を行い、お互いの遺産を保護するために協力することを呼びかけます。

私たちは、遺産がコミュニティ、国家、民族間の対話の重要な焦点となりうると信じています。遺産は、実際、平和構築のためのツールとなり得るのです。2013年の設立当時、HFPは紛争時の文化遺産保護に焦点を当てたユニークな団体でした。文化遺産保護に関するトレーニングやサポートを仲間に提供することで、紛争時の文化遺産の被害軽減や防止、復興のための土台作りを支援するNGOです。HFPの活動は、現地の知識と海外スタッフの紛争に関する専門知識を活用し、能力開発と知識の移転を促進し、紛争下の遺産管理従事者と地域社会の遺産管理における自立を目指します。

個人の信念を超えた大きなものを示すことで、過去は、紛争時に平和をもたらす力を持ちます。「平和のための遺産」は、将来の平和構築の努力を促すための土台となるものです。例えば、2013年のサンタンドール会議で、シリアの遺産保護について話し合うために、DGAM (The Directorate General of Antiquities and museums in Syria) と野党文化省が同じテーブルにつくよう手配し、同じ成果に向けて署名したとき、Heritage for Peaceはこれを直接目にする事ができました。

ARTICLE

H4P は、文化遺産保護を平和構築につなげるため、アラブ諸国の市民社会組織 (CSO) との共同イニシアティブである

「文化遺産保護のためのアラブ市民社会組織ネットワーク (ANSCH)」など、いくつかの追加イニシアティブを立ち上げています。このイニシアティブは政府機関、CSO NPO と協力して、遺跡、歴史的モニュメント、博物館、その他の文化遺産資源の特定、管理、を行うものです。現在、私たちの活動は、シリア、イラク、リビア、イエメンに集中しています。アブアブ・イニシアティブは、中東・北アフリカからの難民・移民との異文化間対話のために文化遺産を活用することを目的としており、アラビア語を話す難民・移民の社会統合のための道具として文化遺産の活用に取り組んでいます。さらに、パルミレーヌ・ボイス・イニシアティブは、パルミレの人々の声を国際社会に届けるためのプラットフォームを提供し、パルミレに戻り、自分たちの街を再建する努力をするすべてのディアスポラにいるパルミレ人を支援する使命を持ってパルミラを支援しています。N GO の未来は決して確かなものではありませんが、さまざまな困難に直面しながらも、私たちは紛争の影響を受けたあらゆる立場の遺産保護関係者に国際的な支援を提供する最初のグループの一つとして立ち上がり、その活動は対話と平和構築の基盤としての遺産保護への道を切り開いたのです。



北シリアの伝統的の家屋の修復を行う平和のための遺産



シリア人の遺産保護活動家に対する研修の様子

イスベル・サブリン博士はシリアの考古学者で、文化遺産管理を専門とし、Heritage for Peace の代表、ANSCH (The Arab Network of Civil Society Organizations to Safeguard Cultural Heritage) のディレクターを務めています。私の連絡先はこちらです

esper.1.985@yahoo.com

<http://www.heritageforpue.org>

(翻訳：寺沢京子)

ヒロシマへのオマージュ、 命へのオマージュ

玉城 ロイ Roy Tamashiro

編集部注：この挨拶は、2022年8月6日に米国ハワイ州ホノルルの出雲大社伝道所で行われた広島原爆投下77周年記念第33回広島平和祈念式典で述べられたものです。

過去2回の広島平和祈念式典の休止を経て、私はこの場にいること、そして皆さんにお会いできることを心から嬉しく思っています。これほど多くの、特に若い人たちが集まってくれたことをうれしく思います。

今日の式典の意味と、この2年半の大きな不安について考えるとき、1945年(ここ広島で被爆してから2年後のこの日、1947年8月6日に、当時の浜井信三広島市長が被爆地で最初の「広島平和宣言」を行ったことも思い起こされるのです。

「本日、広島への原爆投下から2周年を迎えるにあたり、私たち広島市民は、この地で平和祭を開催し、平和の確立に向けた決意を新たにすると宣言したのです。

今日、私たちは「ヒロシマへのオマージュ」として、この「この地で平和の祭典を祝う」という言葉を受け入れ、実践しています。パンデミックだけでなく、東欧で続く戦争、環境破壊、銃乱射、アジア人を含む人種的テロ、極度の貧困、政治と権力闘争による人権の侵害、市民権の後退、生殖関係の医療やプライバシーの権利など、根強い問題や危機があるのです。1947年、浜井市長はこう続けました。「人類は、8月6日が世界平和のチャンスをもたらす日であったことを忘れてはならない。

そのために、私たちは今、限らない悲しみを抱えながらも、その日を記念して平和の祭典を厳粛に開始するのです」と述べている。今日、私たちは「ヒロシマへのオマージュ」として、世界的な危機の中にありながら、また、限らない悲しみの中にありながら、2022年8月6日というこの日を、厳粛な平和の祭典として記念しているのです。

このように、私たちの「広島へのオマージュ」は、「生命へのオマージュ」なのです。第一次広島宣言は、「私たちは、危機に瀕したとき、深く考え、新たに出発することによって、危機そのものから新しい真実と新しい道を発見することを知っています」と述べています。

この2年半は、私たちに深く反省する機会を与え、そして今、私たちは新たなスタートを切るのです。広島は惨禍という危機から得た新たな真実と新たな道は、「平和に向けて全力を尽くし、新しい文明の先駆者となること」なのです。

それから75年、3世代を経た2022年、私たちは、もはや先駆者としてではなく、新しい文明の開拓者、設計者、建設者として歩み出すよう求められています。

この広島平和祈念祭は、広島への呼びかけに応えるための恒例の式典です。この広島平和祈念祭は、「戦争の悲惨さを一掃し、戦争を永久に放棄し、真の平和を築くために力を合わせよう」という広島への呼びかけに応えるための、毎年恒例の式典です。この平和の祭典で「平和の鐘」を鳴らすことは、私たちの「ヒロシマへのオマージュ」であり、「いのちへのオマージュ」なのです。

ロイ・タマシロは、米国ミズーリ州セントルイスのウェプスター大学名誉教授。広島原爆被爆者とその伝道者に触発された世界的な平和巡礼について、多くの講演をし、出版物を発表している。



ルバ・ルコヴァ、エコロジー、セリグラフ
Luba Lukova, Ecology, Serigraph

相互理解のための「平和博物館」を支援するために

ルーシー・コルバック
LUCY COLBACK

戦争の説明において、最高の博物館は、真の勝者など存在しない悲劇の両面を見せることができます。戦争の無益さと人的被害に焦点を当てた博物館は、国家神話によって歪められた、自国側の英雄的行為と相手側の悪意のみを紹介する博物館よりもはるかに強力なメッセージを伝えることができます。ワシントン DC のホロコースト記念館は、前者の例です。この施設は、ある民族が受けた想像を絶する恐怖を、他の民族を悪者にすることなく、来館者に深く理解させます。このアプローチは、加害者への憎悪を煽ることなく、犠牲者への同情の余地を残すものです。

しかし、多くの場合、美術館の物語は、「善」と「悪」が明確でない場合でも、どちらかの側を支持することを選択し、私たちの違いを固定化する危険性をはらんでいます。相互理解を促進するようなバランスのとれた見方を提供するのではなく、「我々」の側だけを輝かせ、「彼ら」の側は、我々を殺そうとしたのだから死んで当然だとするのです。私は、第二次世界大戦を伝えることに関連する世界中の多くの博物館で、このことを直接目にしてきました。

2017年に仕事を離れて、世界中のあの戦争の生存者にインタビューした後、多くの人が現代の教育による歴史の扱い方を嘆いていることを知りました。ある人は党派的な語りに失望し、ある人は戦争の発端や敵が経験した困難の背後にあるニュアンスを理解できず、時には同盟国への正当な評価が省略されることさえありました。歴史を保存するための博物館を訪れたとき、私はしばしば生存者の不安が正当化されることに気づき、同じ出来事であっても国の神話がいかに表現を変えるかに驚かされました。戦争のあらゆる側面は複雑すぎて、一つの博物館には収められないかもしれないが、太平洋戦争を浅く見てきた私は、展示方法が私たちの反応に大きな影響を与えることを知りました。

そのことを最も痛感させられたのは、琉球から日本本土に向かう途中で沈没した対馬丸の話です。1944年8月に沈没したとき、この船は避難してきた数百人の学童を乗せていました。ほとんどの児童が亡くなっただけでなく、この事故により、来るべき沖縄戦を前に、児童を安全に送り出すための輸送船団がこれ以上配備されることはなかったのです。

私は2018年に対馬丸博物館を訪れました。残念なことに、ほとんど全ての説明書は日本語で書かれていました。唯一、日本語以外のものは、致命的な魚雷を発射した潜水艦、USS ボウフィン¹の英語の仕様書でした。私の語学力不足は博物館の責任ではありませんが、キャプションが理解できないため、子どもたちを殺した犯人を非難しているような印象を受けました。友人の同い年の息子に似た子供を見たとき、初めて遺族の悲しみを実感しました。人間のつながりゆえに、彼らが感じたに相違ない深い悲しみに目を向け得たのです。

地球の裏側で、私はこの悲劇の裏側に触れていたのです。同じ年の初め、私はパールハーバーを訪れ、USS アリゾナやその他の観光展示を見学していました。ここでは、日本軍の攻撃はいわれのないものであるという残忍さが強調されていました。

見学者に公開されていた船の一つが、USS ボウフィン¹でした。この潜水艦は、戦時中の配備の背景を説明していたが、何百人もの小学生を死なせたという役割については、どこにも触れられていません。その任務の後、乗組員は士気が下がるないように、結果を知らされることなく、勲章を授与されたのです。

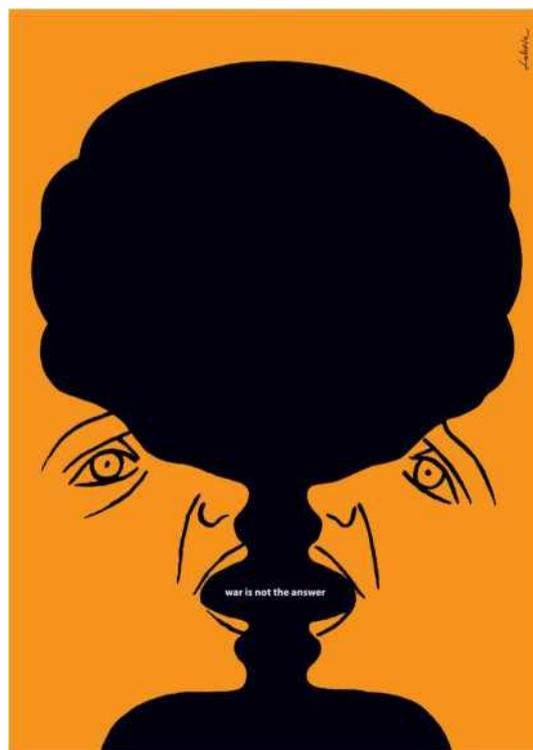


真珠湾を訪れたときは、そのような歴史的経緯は知りませんでした。しかし、対馬丸記念館を訪れた後、私が出会った多くの退役軍人が語ったように、「戦争に勝者はなく、敗者だけがいる」という単純な事実を、双方の訪問者に教育する機会を逃してしまったように思われました。

これほどまでに日米が協力関係にあるにもかかわらず、戦争で殺されるのは罪のある者だけでなく、実際には罪のない者も多いことを知るために、もっと超党派で歴史を説明する余地がないのは悲しいことです。同盟国がそれをできないとしたら、誰ができるのでしょうか？

ルーシー・コルバックはフリーランスのライターで、第二次世界大戦の生存者によるオーラルヒストリーを集めた本を近々出版する予定です。

(翻訳：寺沢京子)



dialogue

ルバ・ルコヴァ、対話、セリグラフ

INMP 日本事務局からのご案内

このニュースレターで紹介されている通り、INMP の第 11 回億歳平和博物館会議が 2023 年 8 月 14～16 日にスウェーデンのウプサラで、17～18 日ノルウェーで開催されます。対面参加に加えて、オンライン参加も可能です。

日本事務局では、この機会に国際会議に参加してもらうために、ヨーロッパの平和史跡なども含めたツアーも検討しています。オンライン参加を希望する会員にも便宜を提供できるよう、必要な情報の提供や技術的助言、可能な財政支援なども考えています。

改めて詳細な情報をご案内しますので、どうぞ積極的にご参加をご検討下さい。

「ディープ・サウス・ミュージアム とアーカイブス構想： 紛争が続くタイで、平和のための博 物館が始まる」

PATPORN PHOOTHONG
パットポーン・プートン

紛争が続く地域に、平和のための博物館を設立することはできるでしょうか？誰がその博物館に行きたいと思うのでしょうか。何を展示するのでしょうか。展示物は安全でしょうか？博物館が政治的な道具として利用されるのを防ぐにはどうしたらよいのでしょうか。地元の人々は博物館のアプローチやコンセプトを理解することができるでしょうか？和平交渉に貢献できるのでしょうか？

タイの深南部で紛争が続く地域に平和のための博物館を設立する可能性を検討したとき、すぐに多くの疑問がわき起こった。しかし、私たちは決行することにしました。この取り組みは、地域の人々にとって社会的・政治的な公共空間としての役割を果たすことができると考えています。博物館と公文書館のコレクション、展示、教育活動は、南部地域以外のより多くの人々に伝えることができます。それらは、記憶の保存と回復を支援することができます。そして最も重要なことは、特に移行期の正義のプロセスにおいて、不処罰の文化に立ち向かい、それを排除するための証拠を提供することができるのです。

私たちは、この取り組みが長期的なプロジェクトであり、博物館が単なる建物ではないことを認識しています。その結果、ディープサウスをはじめとする幅広い出資者からの協力が必要となります。2021年の初年度は、平和のための博物館・資料館というコンセプトを紹介し、被害者の遺族や地域の関係者に関わってもらうことから始めました。試験的に選ばれたのが、タクバイの事件です。タクバイ事件(タクバイ大虐殺)は2004年10月25日に発生し、100人近いイスラム教徒のデモ参加者が軍のベースキャンプに軍のトラックで運ばれる途中で、主に窒息死によって殺害された事件です。

笹川平和財団の支援により、タクバイ事件の一次資料、二次資料をマッピングし、解明、デジタル化し、保管しました。このアーカイブ作業は、平和のための博物館・資料館のコンセプトを示すとともに、将来の博物館・資料館の資料として活用される予定です。また、タクバイ事件の犠牲者の家族や、事件の関係者、目撃者からオーラルヒストリーを収集しました。



Taloh-Manoh 墓地
タクバイのほとんどの犠牲者が埋葬されている。

タクバイ事件の犠牲者の墓地これらのオーラルヒストリーは、フォトブックとして発表され、将来の博物館やアーカイブの資料となる予定です。また、今年末には、バンコクと北部・北東部でタクバイ事件の記憶を集めた移動展示会を開催する予定です。

紛争が続く中、平和博物館のコンセプトに対する知識や理解を得ることが難しい中、私たちの小さな活動は静かに始まり、徐々に既存のネットワークに紹介、協力し、この活動のコンセプトや目的を説明し、支援の約束を得ようとしてきました。私たちは、私たちの成長が緩やかでありながらも肯定的であることを期待しています。そして、時期が来れば、このイニシアティブは深南部とそれに多くの地元の人々を巻き込み、後に具体的なミュージアムに還元されることでしよう。

タイ深南部は、パタニ県、ヤラ県、ナラティワート県、ソクラー県の一部で構成され、1948年に端を発し、2000年代初頭に再び起こった現在進行形の紛争である。2004年1月4日から2022年3月31日までに、21,485件の事件、20,985人の犠牲者、7,344人の死者、13,641人の負傷者が出た(Deep South Watch,2022年)。



オーストラリア戦争記念館と 開拓戦争

スー・ワレハム博士

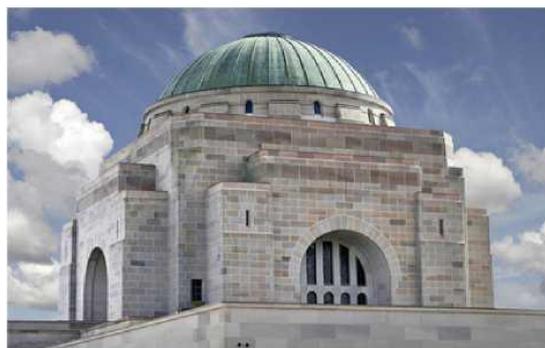
SUE WAREHAM

最近、オーストラリア戦争記念館 (AWM) に対して、開拓戦争について語り、記念するよう求める声が再び高まっています。開拓戦争とは、植民地の侵略から自分たちの土地と生存を守るために、何万人ものアボリジニが非業の死を遂げた戦争のことです。彼らの多くは戦士であり、また多くは 1700 年代後半から 1900 年代初頭にかけて国中で行われた虐殺の犠牲者でした。

しかし、オーストラリア人が戦った戦争で、AWM に記念碑が設置されていないのはこの戦争だけです。何十年もの間、歴史家たちはそのような記念行事を行うことを強く求めてきましたが、記念館はこの問題に真剣に取り組むことを拒んできました。その代わりに、オーストラリアが海外で戦った戦争に恣意的に焦点を当て続け、辺境戦の物語は重要だが、それは我が国の戦争記念の場ではなく、別の場所に属すると述べているのです。

これでは持続不可能です。AWM の使命は、「オーストラリアの戦争体験とそれがオーストラリア社会に及ぼした永続的な影響を、オーストラリア人が記憶し、解釈し、理解するのを助ける」ことなのです。オーストラリアの先住民が土地を奪われたことは、永続的で深刻な影響を与え、それは今日まで続いているのです。ここオーストラリアの地で、戦争の役割についての理解が著しく欠落していることは、是正されなければならないのです。これでは持続不可能です。AWM の使命は、「オーストラリアの戦争体験とそれがオーストラリア社会に及ぼした永続的な影響を、オーストラリア人が記憶し、解釈し、理解するのを助ける」ことなのです。オーストラリアの先住民が土地を奪われたことは、永続的で深刻な影響を与え、それは今日まで続いているのです。ここオーストラリアの地で、戦争の役割についての理解が著しく欠落していることは、是正されなければならないのです。

オーストラリアの植民地化の過程で起きた殺戮と土地の窃盗は、いかなる「戦争」の定義にも当てはまり、当時は戦争と見なされていました。豪州と英国の公文書館には、これらの紛争を「戦争」と呼ぶ記述が多数あります。AWM は、我々の歴史におけるこれらの恐ろしい出来事を語り、記念するユニークな場所にあるのです。5 月にオーストラリアで政権が交代し、アンソニー・アルバネーゼ首相が選出されたことで、ようやく開拓戦争がこのように記念されるかもしれないという新たな希望が生まれつつあります。



オーストラリア戦争記念館

選挙の夜、国民に向けたほぼ最初の言葉として、首相は、2017 年に発表された、オーストラリアの歴史における実質的な承認に関する提案について、ファースト・ネーションの人々の過去最大の統一見解である「ウルル声明 (Statement from the Heart)」を実行すると表明しました。その呼びかけは、「私たちの歴史についての真実の語り」であり、中心的な重要性を持っています。7 月上旬、戦争防止医学協会 (オーストラリア) は政府に対し、私たちの最も重要な戦争記念の場が、最終的に真の真実を語る場となるよう要請する書簡を送りました。他の団体も同じようなことを行っています。新政権がウルル声明に従おうとしているにもかかわらず、開拓戦争についての真実を語ることに対する記念館側の強い抵抗は依然として残っています。キャンペーンは続いているのです。

オーストラリアの植民地化は、決して平和的なものではありませんでした。しかし、このような恥ずべき歴史的要素に直面してこそ、理解と和解が可能となり、将来の激しい紛争の回避に貢献できます。スー・ワレハム博士 (Dr. Sue Wareham OAM) 戦争予防医学協会 (オーストラリア) 会長 “平和を推進する医療従事者”

www.mapw.org.au

ひめゆり平和博物館 コロナ禍でのオンライン学習

ひめゆり平和祈念資料館平和研究所
狩俣英美

2022年2月のまん延防止措置の解除以降、修学旅行生や一般の来館者も増え少し活気も戻ってきました。しかし、新型コロナの感染はまだ収まらず、入館者数はまだコロナ禍前の4割程度にとどまり、厳しい運営状況が続いています。乗り越えるべき課題は多くありますが、ひめゆり資料館は感染対策を講じながら通常通り開館しております。

コロナ禍の中ではじまった取り組みとして、ひめゆり資料館では2020年度からオンライン学習を行なっています。一つは、「ひめゆりの沖縄戦」。通常、資料館で行なっている平和講話をオンラインで行います。ひとりの元ひめゆり学徒に注目して、その方の証言映像や写真などを使いながら、戦争体験を紹介する内容です。二つ目は、「絵で見るひめゆりの証言」。体験者と一緒に制作した沖縄戦の絵を使って、ひめゆり学徒の沖縄戦体験を紹介します。そして、三つ目は「オンライン展示ガイドツアー」。2021年4月にリニューアルした展示室を撮影し、その映像を見ながら展示制作を担当した職員がガイドします。

2022年3月末までに61件のプログラムが実施されました。展示ガイドツアーを体験した高校教師からは、「ガイドがあると展示の意図や体験者の思いがよく伝わってきました。自分で見学するだけでは読み取れないこともありますし、高校生ならなおさらと思います。体験者の方の声が盛り込まれているのが良かったです。特に、戦後の孤児院の話はとても響きました。写真の背景にある真実が伝わると惹きつけられるなと思いました」という感想がよせられました。

また、ハワイ展の内容もオンラインにてご覧いただけます。本展示は、2021年にハワイで開催を予定していましたが、コロナ感染拡大のためそのプランは延期し、代わりに沖縄のひめゆり平和祈念資料館にて2021年10月～22年2月まで開催しました。県外、海外の方々にも展示を見ていただけるようにウェブ展示も制作しました。

ウェブ版はこちら <https://himeyuri-and-hawaii.com> から見学が可能です。2022年は、沖縄県立図書館(6月15日-7月11日)、今帰仁村歴史文化センター(10月ごろ)、読谷村ユンタンザミュージアム(12月ごろ)にて巡回展としてのハワイ展開催を予定しています。

平和研究所では、毎年、映像コンテストを開催しています。2021年は映像をつくるためのワークショップを2回実施し、ワークショップ参加者を含めた多くの方から映像作品が応募されました。これまでの受賞作品は、資料館の公式YouTubeチャンネル [https://www.youtube.com/channel/UCn8yW71](https://www.youtube.com/channel/UCn8yW71ZCOjYOHZOM-Zz_nw)

[ZCOjYOHZOM-Zz_nw](https://www.youtube.com/channel/UCn8yW71ZCOjYOHZOM-Zz_nw)にて視聴できます。

下の写真：ひめゆりオンラインガイドを行う学芸員



デイトン博物館が新しい場所で開館

KEVIN KELLY ケビン・ケリー

新型コロナと新しい博物館の建設のため 800 日以上閉館していたアメリカのオハイオ州にあるデイトン国際平和ミュージアムが再オープンしました。テープカット式や 18 周年の記念パーティー、アメリカ国内で有名なスピーカーやゲストの登場など、新しい建物と時代のはじまりを彩りました。新しい博物館の場所は街の中心部であるコートハウス・スクエアに位置しています。

展示スペースが 3 倍となり、スタジオやライブステージ、教室、コーヒーハウス、子どもの広場、そしてゲストの展示のためにデザインされた空間を設けました。その施設での最初の展示は、バーニー・クレイナの写真と 1965 年から 66 年のシカゴ自由運動をテーマとしています。クレイナは、キング牧師がシカゴからアメリカ南部の州までアメリカ国内の旅をしたときに彼の後を追っていた経験を伝えるために準備をしていました。この展示会は 7 月 30 日まで開催されます。

また、平和の折り鶴をモチーフにした新しいロゴとダイナミックで新しいウェブサイト peace.museum も発表されました。新しいスペースでは、似たような志を持つ国内外の団体とコラボレーションや教育的な取り組みに注力していきます。当館は、国内の大学インターンシップ受け入れに加え、オーストリアの海外奉仕プログラムからの若いボランティアの受け入れ先となった初年度を終えようとしています。

(翻訳：狩俣英美)



ケビン・ケリーは、デイトン国際平和ミュージアムのエグゼクティブ・ディレクターです。

ご案内と原稿執筆のお勧め

このニュースレターには、INMP の会員ならだれでも投稿できます。日本の平和博物館の活動を世界に発信し、世界の平和博物館から知恵を貰うために、どうぞ積極的に投稿して下さい。原稿は日本語でも構いません。日本事務局が翻訳に協力します。

皆さんの平和博物館の活動の紹介、これまでの活動から得られた経験的知識の披歴、平和博物館の活動についてのアイデアの提起など、どんどん国際社会に発信しましょう。原稿には、可能なら写真が 1~2 枚あればリアリティが伝わって好ましいと思います。奮って投稿して下さい。原稿の送り先は、

inmpoffice@gmail.com



ルバ・ルコヴァ：チェルノブイリ、福島
セリグラフィ

沖縄県平和祈念資料館

学芸員 仲程勝哉

沖縄県平和祈念資料館は、沖縄の平和発信の拠点施設として、その設立理念である恒久平和の樹立に寄与するため、平成 12(2000)年 4 月の新館開館以来様々な事業に取り組んでおります。今年度は下記の展示活動を行います。

展示活動

〈第 32 回児童・生徒の平和メッセージ展〉



戦争や人権問題など、学校で学習したこと、生活の中で感じた「平和」をイメージした図画、作文、詩を県内の小・中・高校及び特別支援学校(学級)の児童・生徒から募集し、優秀な作品を表彰するもので毎年実施しています。図画、作文、詩の 3 部門から小学校(低・高)、中学校、高等学校、特別支援学校(学級)に分けて優秀作品を公開します。

期間：

6月 23 日～7月 4 日 沖縄県平和祈念資料館企画
展示室

7月 13 日～7月 22 日 八重山平和祈念館企画展示室

7月 29 日～8月 7 日 宮古島市未来創造センター

8月 20 日～8月 31 日 沖縄県平和祈念資料館企画
展示室(20 日は表彰式)

9月 8 日～9月 17 日 名護市立中央図書館

9月 28 日～10月 10 日 沖縄県立図書館

〈特別企画展「アメリカ世の記憶 ～日本復帰 50 周年記念企画展～」〉

今年度は沖縄が米国統治下から日本へ復帰した昭和 47(1972)年から 50 年目に当たります。沖縄戦終結後の本県は米国の占領下に置かれ、日本から切り離されました。その中で多くの住民は戦禍で荒廃した郷土で文字通りゼロからの出発を余儀なくされ、戦後 27 年間続く米国統治下いわゆる「アメリカ世(アメリカユ)」を生き抜いてきました。

本特別企画展は、当館が収蔵する昭和 20(1945)年～47(1972)年頃の米国統治下の沖縄及び昭和 53(1978)年の対面交通方法変更「730(ナナサンマル)」に関する資料を中心に、各分野による展示を行います。

展示を通して米国統治下にあった沖縄と、当時を必死に生き抜いた住民の努力と日本復帰の実現、そしてナナサンマルについて改めて確認し、多角的な視点で戦後の沖縄と平和について捉える事により、平和を希求する「沖縄のこころ」を発信する機会とします。

期間：

10月 3 日～11月 30 日 沖縄県平和祈念資料館企画展示室

その他

本館は展示活動以外にも様々な教育普及活動を実施予定です。詳細に関しては当館ホームページや公式 Twitter でも情報発信しています。

【5ヶ月間：令和 4 (2022)年 7 月 7 日～令和 5 (2025)年 4 月 30 日】

お問い合わせ

メール：webmaster@peace-museum.okinawa.jp

※英語で問い合わせの際、お手数ですが日本語の訳文も記入願います。



<http://peace-museum.okinawa.jp/>



平和のためのヴィジョン

-人類は一つ:

ヴィクトール・フランクル博物館 in ウィーン

フラン・イヴ・ライト

Fran Eve Wright

「人間は傷つきやすい肉体を持っており、影響を受けやすい精神を持っており、自分自身と世界にどう対処したいかを精神的に決定する人格者である。人間は意味を求める存在であり、それこそが人間の尊厳となるのです。」ヴィクトール・フランクルは、ウィーン大学の神経学と精神医学の教授であり、アメリカ(ハーバード大学、ダラスとピッツバーグの大学)でも講師を務めていました。フロイトの精神分析、アルフレッド・アドラーの個人心理学に続く「第三のウィーン学派」とも呼ばれるフランクルの創始した心理療法、ロゴセラピーの講座をカリフォルニアの米国国際大学に開設したのも彼である。世界各国の大学から27の名誉博士号を授与されている。ジークムント・フロイトの弟子にちなんで名付けられたオスカー・フィスター賞をアメリカ精神医学会からアメリカ人以外で初めて授与され、オーストリア科学アカデミーからは名誉会員に選出された。フランクルによれば、人間の「ワン、ヒューマン」への憧れには、これ以上ないほど時事性の高い平和のヴィジョンが含まれている。自分の力を知ること、諦めるのではなく、行動を起こすことができるようになるのです。

ヴィクトール・フランクル博物館(ウィーン)1945年に強制収容所からウィーンに戻り、年に亡くなるまで、ヴィクトール・フランクルはマリアンネンガッセに住んでいました。彼はそこで、人間は精神的な存在であり、人生の意味を見いだす限り、どんな最悪の状況にも打ち勝つことができるという論文を完成させたのです。



Viktor E. Frankl

ヴィクトール・E・フランクル：画像は Excellence Reporter より

現在、フランクルの仕事場は、インスピレーションを与える博物館になっています。2022年3月、展覧会「MONANTHROPISM "The ONE Humanity"」が開催されました。「しかし、唯一の人類という知識、私がモナントロピズムと呼ぶ知識はどこにあるのでしょうか。人類の統一に関する知識、それは肌の色や党派など、あらゆる多様性を超越した統一である」-ヴィクトール・フランクルの人類統一に関する知識は、私たちに何を問いかけているのでしょうか。ある人々が繁栄と安全を享受している一方で、ある人々は戦争と自分自身や愛する人への存亡の危機の中で暮らしています。私たちは自由を享受している。しかし、他者に対する責任はどこにあるのだろうか。私たちは社会的で、精神的な才能を持った存在であり、人間関係の中で生き、私たちの態度や行動によって、自分自身だけでなく、私たちを取り巻く環境、つまり世界を形作っているのです。今、世界を少しでも明るくするにはどうしたらいいのでしょうか?インタラクティブな展示エリア、すべての引き出しの中には、新しい考え、新しい洞察、新しい視点、センス理論の異なるグラフィックがあり、あなたの発見を待っています。あなたの人生のクリエイターであり続けましょう。

英語字幕付きビデオを見る:

<https://vimeo.com/692561353>

ロゴセラピーについて

ヴィクトール・フランクル・センター・ウィーン

franklzentrum.org

プログラムディレクターウィーン、INMPメンバー
フラン・イヴ・ライト(ユネスコクラブウィーン)
)「人類は一つ」展のパトロンです



Viktor Frankl Museum, Vienna

ヴィクトール・フランクル博物館 in ウィーン

731 部隊跡の保存・展示について

侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館

劉茄

731 部隊は当時、世界最大の細菌戦基地で、最も充実した施設と最高の機能を備えていました。本部の主なインフラ施設は、事務棟、見張り番、刑務所、鉄道、空港、学校、神社、講堂、宿舎、ボイラー室、給水塔、そして冷凍実験室、ウイルス実験室、結核菌実験室、ガス実験室、ガス貯蔵室、動物飼育室、武器製造室、焼却炉などの各種実験施設を有していました。日本が降伏する前、731 部隊の本部には 80 以上の建物がありましたが、犯罪の証拠を隠滅するために、731 部隊は退却する前に建物や施設を爆破しました。戦後も一部の建物は残っていました。長年にわたり、政府はこの遺跡の保存と展示に力を入れており、遺跡の中心面積は 25 万平方メートルです。

細菌実験室と特殊刑務所の敷地は、保存と展示の焦点となっています。細菌実験室と特殊刑務所は 731 部隊の中核施設で、面積は約 15,000 平方メートルです。建物はレンガとコンクリートの箱型です。建物は 3 階建てで、南から北に向かう中央通路で東側と西側に分かれています。両部分には 2 階建ての監獄があり、「特別移送」された人々が閉じ込められて「実験材料」となりました。この建物は、731 部隊が細菌の研究、実験、バクテリアの製造を行うためのセンターでした。

1945 年 8 月、731 部隊によって建物は完全に破壊され、残骸は地下に埋められました。政府は 2000 年と 2014 年の 2 回、細菌実験室と特別監獄の跡地の発掘調査を実施しました。

地下の遺跡を保存するため、遺跡全体を覆う巨大な保護小屋が建設され、内部には標識と見学通路が設置されました。見学通路を歩くと、足元には 731 部隊が人体実験に使っていた実験室の基礎が広がっています。このほか、ボイラー室などの跡地もこのように展示されています。

博物館は、一般公開されています。詳細はホームページでご覧いただけます。

劉茄氏は、当館「日本帝国陸軍 731 部隊の犯罪証拠展示室」研究部スタッフ。



731 部隊の跡地は、まさに戦争犯罪の記録であり、戦争遺跡の保存と展示は、人々に戦争と平和について考えさせる重要な手段である。





ルバ. ルコヴァ、教育対戦争、シリグラフ
Luba Lukova, Education Vs. War, Serigraph

ゲルニカ平和博物館の企画展 「戦争下のヨーロッパにおける 女性と子ども(1914-1949)」 を通じて連帯を想起

イラチェ・モモイティオ・アストルキア
IRATXE MOMOITIO ASTORKIA
ゲルニカ平和博物館館長

9月中旬から 2022 年末までゲルニカ平和博物館(スペイン、バスク地方)

www.museodelapaz.org で展示されるこの巡回展は、ヨーロッパの戦争における子ども時代、女性の動員力と人道的コミットメント、歴史から記憶を構築する長い道のりに焦点を当てた3つのテーマ別モジュールを紹介します。

この展覧会で、このヨーロッパプロジェクト (MIGRAID

<https://exposiciones.migraid.org/en/home/>)に参加したコンソーシアムは、20世紀のヨーロッパの歴史の中で最も激動の時代の一つにおける連帯と人間性の重要性に注意を促したいと考えています。この時代は、戦争とその結果による膨大な人的損失、大規模な破壊、苦難、人口移動、飢饉、抑留、国外追放、強制労働、大量虐殺、絶滅が特徴でした。

人道支援団体と女性ボランティアの連帯と努力によって、暗い時代に市民グループの救出と生存を可能にしたこの最近のヨーロッパの過去は、紛争、環境災害、暴力、飢餓、迫害によって、人口の移動と非常に難しい状況での生存を強いられる現代を考えさせるものです。さらに、COVID-19によるパンデミックや最近のウクライナ戦争など、最も脆弱で無力な人々に再び大きな影響を与える新たな状況も加わっています。

展示の最初のモジュールは、「Childhood in the European wars (ヨーロッパの戦争における子ども時代)」と呼ばれるものです。この展示では、軍事目標として民間人を標的にしたことで、何百万人ものヨーロッパの民間人が避難し、子どもたちの生活に前例のない影響を及ぼしたことが説明されています。この展示のモジュールでは、複数のテーマを扱っています。

- 1) 第一次世界大戦中の子どもたち
- 2) 戦後の人道主義外交
- 3) スペイン内戦；移住、3)
- 4) スペイン内戦；移住、避難と亡命
- 5) 戦争、抑留、国外追放
- 6) 荒廃したヨーロッパにおける子どもたち



「子供たちよ、戦争で遊んではいけない。親たちよ
軍用玩具を片付けなさい。」

© BnF(departement estampeset photographie, ENT QB-1
(1951-1959) -ROUL).

国際平和闘士連盟が行った広報キャンペーン。

本展示の第 2 モジュールは、女性のコミットメントと国境を越えた人道支援に焦点を当てています。20 世紀までのすべての戦争に女性は何らかの形で参加していましたが、その参加は例外的で目に見えない性質のものでした。前例のない形で動員されたのは、第一次世界大戦以降のことです。

この展示では、以下のテーマを扱います。

第一次世界大戦勃発後の女性の動員

帰国と権利の獲得の狭間で

スペイン内戦における人道支援ボランティア

人道的援助のある戦場における戦争(1939-

1945 年)

-平和への困難な移行



国際女性会議のためにハーグに向かう船のデッキにいるジェーン・アダムス(左から 2 人目)と他の代表者たち(1915 年)。© LOC (ジョージ・グランサム・ベイン・コレクション(LC-DIG-ggbain-18848))

展覧会の 3 つ目、そして最後のモジュールは、「歴史から記憶へ：事実、沈黙、リハビリテーション」と名付けられています。このモジュールでは、ゲルニカ(スペイン)、テレジン・ゲットー(チェコ共和国)、イジューの家(フランス)、フォツソリ収容所(イタリア)、国立現代史博物館(スロベニア)など、戦争の出来事を次の世代に忘れないために記念するさまざまな場所を取り上げています。

イラチェ・モモイティオ・アストルキア

ゲルニカ平和博物館館長、INMP 共同コーディネーター



「バーチャル展示会『夢を見る者は預言者と呼ばれる』

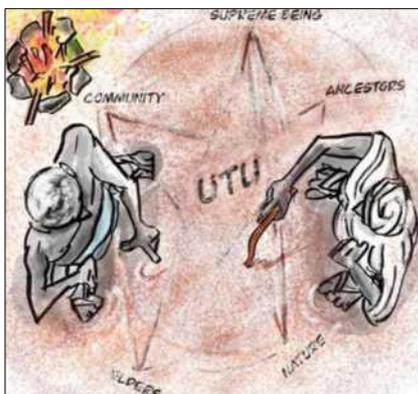
平和の源を求めて東アフリカの先住民の心の奥深くへ歩む」

サルタン・ソムジー
SULTAN SOAAJEE

バーチャル展示のジオラマは、サディク・ソムジーの3冊のグラフィック小説『アラマの散歩道、予言者は語る』(2021)、『アラマの散歩道、地球を癒す』(2022)、近刊『アラマの散歩道、屈辱と復讐の鬼』(2023)から引用したパネルになっています。これらの小説は暴力が蔓延する土地で平和の源を探る遊牧民アラマの壮大な旅を反映しています。この作品は、INMPの長年のメンバーであるサルタン・ソムジーが、民俗学小説『夢を見る者は預言者と呼ばれる』(2020年)で明らかにした旅路を類推させるものです。

Alama's Walk

The Oracle Speaks
 > gr 88 Me neval adapted from
 Wefo Droams is Called a Prophet



*"I love this book! The images remind me of my
 (Mid)hoo (looking) opicurry from African
 COTUHO"*

Sii 11311

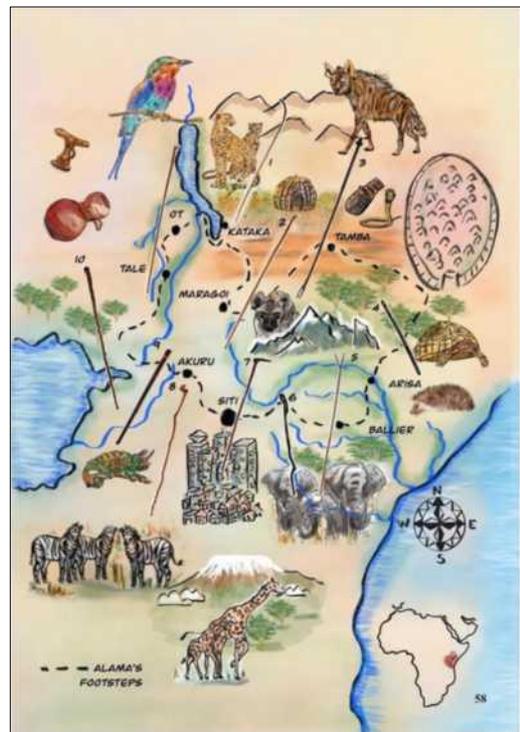
Xjamba Koffi
 AMhor of Kifuge-c The Journry Math DesM

Nlusinied by

S30IQ S0ni|88

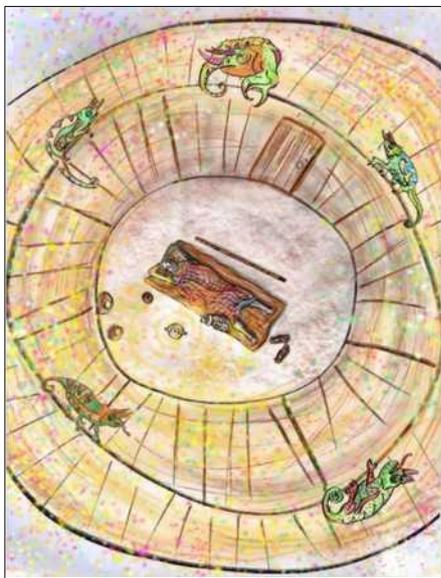
バーチャル.エキジビションでは、9つのパネルがアフリカ東部の伝統的な平和の物語を描いています。これらは、物語の主題にちなんで名付けられたセクションで演出されています。

「地球を癒す」「平和は夜明けの美しさ」「平和は敵とも分かち合う」など、物語のテーマにちなんだ9枚のパネルが展示されています。平和の探求者であるアラマは、紛争が絶えない土地で、異なる文化のコミュニティの長老たちに耳を傾けながら、これらの物語を体現しています。



本展のキュレーターは、米国のプロジェクト *Violence Transformed* の ビジュアルアート デイレクター兼リードキュレーターであるジョナサン・シャーランド教授です。ワシントン州のブリッジウオーター州立大学で *African Art and Transforming Violence* というタイトルのコースを教えているシャーランド教授は、「アフリカの平和遺産が、*Violence Transformed* が受け入れる世界規模の芸術活動の範囲を多様化し、私に刺激を与えたように、あなたにも刺激を与えることを私は望んでいます」と書いています。シャーランドの仕事には、芸術を通して、アメリカとアフリカの変容する関係を比較することも含まれています。

この展覧会の素材は、ソムジ博士が数十年にわたり先住民の物質文化や民俗学的なオブジェと関わり、1994年にケニアに平和博物館を設立することにつながったものです。この博物館は、人々から人々への運動を通じてウガンダや南スーダンにも広がり、2018年には元子ども兵で自身も難民であるL・オケチによって、初の「アフリカ子ども兵の平和博物館」が始まりました。



この Virtual Exhibition の意義は、アフリカの平和遺産の多様性を学ぶことができる可能性にあります。この Exhibition は、Mathare Valley、Kariobangi、Dandora、Ruaraka と いったナイロビで最も貧しい地域の平和・市民教育者のトレーニングに使用される予定です。今回の選挙では、これまでのケニアでの選挙と同様、暴力が起こる可能性があります。アフリカの人々、芸術、動物、木々、風景などのイメージのパノラマを共同で鑑賞し、感覚と心に物理的な衝撃を与えると、展覧会のテーマである「ウトウ」が伝える希望は、恐怖と落胆に取って代わるでしょう。選挙期間中、ミタア(スラム街)の貧しい人々は、特に女性たちが繰り返し受けた警察の残忍な行為の記憶に基づく深い恐怖を抱えています。

ウトウは、スワヒリ語で人や人間を意味する mtu に由来します。ウトウとは、祖先が人類に与えた尊厳のことなのです。このように、ウトウは人類一人一人に、人間性

保証するものです。それは、腐敗した当局が盗むことができず、警察の警棒が破壊することができず、暴力が貧しい人々から奪うことができない遺産なのです。

<https://violencetransformed.com>

2021年、国連はソムジ博士を世界12人の「文明間の対話の隠れたヒーロー」の一人として表彰しました。ソムジ博士は、「人間の尊厳と屈辱研究」の国際委員会の委員を務めています。本業は作家、民族誌学者。

(翻訳：寺沢京子)

最古の平和

クライヴ・バレット
Clive Barret

平和は最近の発明ではありません。平和がどのような意味を持とうと、そのことについて言えば、平和は常に人間の憧れの一部であり続けています。ほとんどの時代において、ほとんどの人が、安定に自信を持ち、暴力の脅威から解放され、安全に豊かになり、計画し、栄えることを切望してきたのです。つまり、平和博物館(平和そのものをテーマとする博物館)は、大昔からの平和に関する物語や遺物を求めて古代の歴史を遡って研究することができるのです。

ブラッドフォード平和博物館が所蔵する最も古い遺物は、1700年以上前のものです。しかも、とても小さいものです。これは小さな「ビラン合金・アントニアヌス」硬貨で、紀元276年から282年にローマ軍総帥でローマ皇帝だったマルクス・アウレリウスプロブスの時代のもので、彼の頭部がコインの片面に描かれています。「ビラン」は青銅から作られていることを示します。「アントニアヌス」は2デナリ(古代ローマの銀貨)であることを意味し、ハイパーインフレの時代には、その価値はあまりありませんでした。

EXHIBITIONS

では、なぜこのコインが私たちの収集物の中にあるのでしょうか。その答えは裏面にあります。縁には“ PAX AUG “の文字があり、オリーブの枝を差し出したローマの女神パックスが描かれています。“PAX AUG”とは、パックス・アウグスタ、つまりアウグストゥスの平和という意味です。



© The Peace Museum, Bradford

アウグストゥスはすべてを征服した古代ローマ初期の皇帝で、パックスを神として認め、紀元前 9 年にローマに巨大な Ara Pacis Augustae という祭壇を奉納しました。しかし、アウグストゥスの平和は、非常に局所的なものでした。それはローマ自体の中での安定と秩序を意味していました。しかし一方帝国の国境では戦いが続いていました。それは、戦争と、遠く離れたところに住む被征服者の服従と搾取によって可能になった、少数の特権階級のための平和でした。

アウグストゥスは祭壇を築き、プロブスや他の皇帝は「アウグストゥスの平和」を宣言しました。彼らは、人間らしさの一部である平和への本質的な憧れを認識していました。しかし、このコインは私たちへの挑戦でもあるのです。この皇帝たちは、実際にどのような平和を守っていたのでしょうか。それは欠陥のある平和だったのでしょうか。私たちは、これを十分良い平和として受け入れることができるのでしょうか。今日、私たちはどのような平和を享受しているのでしょうか(享受しているとすれば)。私たちの平和には欠陥があるのでしょうか？私たちの中には、良い生活を享受している者もいます。それも、今日の戦争や他者からの搾取の上に成り立っているのでしょうか？

ブラッドフォードにある平和博物館には、9,000 点を超える遺物が収蔵されています。これらの品々から、平和と平和構築者の類い稀な歴史をたどることができます。このコインはほんの小さなものですが、平和の本質について非常に大きな問いを私たちに投げかけます。平和とは何だろうか？私たちの答えは、おそらく「アウグストゥスの平和」ではないでしょうけれど、それはどんな答えになるのでしょうか。

<https://www.peacemuseum.org.uk/>

平和博物館(ブラッドフォード)

館長クライヴ・バレット

(翻訳：赤松敦子)

「核時代の芸術と市民運動」

シドニー大学

ティン・シェツ・ギャラリー 展覧会

2022年4月7日～5月14日

シドニー大学日本研究科上級講師

クレアモント康子



コロナが収まらないため再々度延期になっていた私たちの「核時代の芸術と市民運動」展は、ロシアのウクライナ侵攻に伴う新たな核の脅威に世界がさらされている今、ようやく 2022 年 4 月 7 日に開催になりました。

展覧会は福島原発事故のあった年の 2011 年以来続けられている広島、長崎の遺産を探るワークショップや学術会議などの一貫した活動のうち一番最近のものであります。今回の長期にわたる活動の目的の一つは過去 70 年以上もの長きに渡って市民、草の根運動家、芸術家を動員した世界の反核運動に焦点を合わせ、彼らの業績を展示することでした。

シドニー大学の4人の組織委員会メンバーは、日本研究科のクレアモント康子とローマン・ローゼンバウム、仏文科のエリザベス・リチニスキー、歴史学科のジュディス・キーンで、2011年以来の活動の責任者です。今回の展覧会ではニューサウスウェールズ大学のポール・ブラウンも加わりました。

豪日交流基金とシドニー大学学長委員会の助成金を受けた展覧会の特色は、海外では稀にしか見られない広島、長崎、ビキニ環礁、マラリング、チェルノーベリ、福島が展示されたことです。例えば、丸木位里・俊の「火」1950年（原寸大複製）、オーストラリア原住民アーティストたちによる「Life-Lifted-Into-The-Sky」（空に持ち上げられた生命）2016年とメリリン、フェアスカイの「チェルノーベリ」2009年の写真です。

この展覧会は、シドニー・アート・ガイドのキャロル・ダンスに「時を得た素晴らしい展覧会」と好意的な批評を受け、「見逃さないように」と推奨されました。

<https://www.sydneyartsguide.com.au/art-and-activism-in-the-nuclear-age-tin-sheds-gallery/>

展覧会ではシンポジウムの一日の他にも土曜日の午後講座を二つ無料で開催し、平和と核兵器廃絶をめざす市民運動家、学者や芸術家たちに公共の場で意見や展望を交換する機会を提供しました。

カラーの目録が以下のサイトから無料でダウンロードできます。

<https://www.sydney.edu.au/architecture/about/tin-sheds-gallery/art-and-activism-in-the-nuclear-age.html>

5月7日のシンポジウムは全てオンラインで、4つのパネルがありました。1. 原爆の凶丸木美術館の学芸員岡村幸宣、「過去と現代の視覚アトミック・アート」、2. ヤラタ・コミュニティからのミマ・スマートを始めとする画家たちによる「オーストラリア、ファースト・ネイション・アーティストのアトミック・アート」

3. テイルマン・ラフ、ディミティ・ホーキングズ、ジェム・ロムド、「ICANと市民反核運動」、4. アラン・マレット、ユキ・タナカ、「核時代の伝統能学が持つ力」。シンポジウムの録音、録画はYouTubeで見ることができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=BQpgJPKHZcU>

土曜日講座は対面で4月23日(土)、メリリン、フェアスカイの「Long Life. The Slow Violence of Radiation」（寿命の長い放射能のゆるやかに続く暴力）と、4月30日(土)、ローマン・ローゼンノ《ウム 「Manga as Nuclear Art: Contemporary Perspectives of Hiroshima and Nagasaki」

(核アートとしての漫画：広島・長崎の現代的展望)です。

メリリンはシドニーを活動拠点とするアーティストで、核時代の生と死の在り方を表現した一連の作品のプレゼンテーションでした。ローマンの講演は、大きな影響を与え続ける中沢啓治の反体制の漫画『はだしのゲン』からこの史代の世代を越えた漫画『この世界の片隅に』までに至る原爆漫画の展開を追跡したものです。

ART & ACTIVISM IN THE NUCLEAR AGE EXHIBITION

MiBrKPVCillBry
onr Brunswick Street and Ivoty Street
Fttude Valley

WMn; 8-16 Ouly 2022,108m-4pm 相祝

O^anIng night: Friday S 6-Spmi Al
welcomed

Contact: 8rt.nuclear.mBanjin@gmail.com

@ art.nud 的 r.m 的 njin



- 7m i U m ropfc', accMnwd HroMma Pwl
fra' en loan, NartM Mary for tfe HraaHma Panata 3^an
- WwM4 from lift UfMM&tim9<WVaM>paH>R<
- pendinf to Brtch nudw h MmIngI
- Chamdiyl phrtop 明 by Naryln FiiWaya
- BrirHno-biaad arti-wdoar acthirt matmab
- tuppoff<c_ luclail^ jkuMnit-StpK Faaxiirtitn, BliitMiw Lord

W [物名 PM 承
Wwan, Pean(M UNMQ IrWam Combinad lHrn Choir,
5^ina Studta Aulxatlin Auririii



ルバ・ルコヴァ、デルタ・ブルース、セリグラフ
Luba Lukova, Delta Blues, Serigraph

芸術を通して地域共同体の 対話の場を作る 現代の平和構築における芸術の場の 重要性

ル・セン LE SEN

平和博物館やギャラリー、芸術のためのスペースには、概念的な意図として平和の象徴的な表現を展示するだけでなく、その壁の中で実際に平和を実現するための空間を作るという重大な機会があります。過去と同じように現在と未来を変えることができる対話を促進するために、私たちの空間の影響力を活用することは、私たちの共通の責任です。

平和とは、現在進行形の過程です。多くの平和構築に関わる人々が証言しているように、紛争はどこにでもあります。私たちはそれをどのように前向きに変えていくかを選択します。

過去 3 年間、少数民族の少女たちを集め、若く、女性で、少数民族出身であるという「三重苦」を調査するという壮大な試みが、カンボジア全土で実施されました。「場を作る」"Making the Space"というこの試みは、仏教、クメールの主流、そして男性が社会の標準とみなされることが多いこの国で、先住民、ベトナム人、イスラム教徒、クメール・クロムの少女たちの状況を調査したものです。芸術へと移行する前に調査から始め、交差性(人種、エスニシティ、ネイション、ジェンダー、階級、セクシュアリティなど、さまざまな差別の軸が組み合わさり、相互に作用することで独特の抑圧が生じている状況〈ヒューライツ大阪公式サイト掲載の徐阿貴氏の定義〉)が、移行中の社会の日常レベルにおいて、複数のレベルの疎外化がいかに真の平和を妨げ続けるかということをもよりよく理解するための鍵だったのです。

カンボジア中の少数民族の地域共同体で参加型調査を行ったところ、アイデンティティ、差別、性と生殖に関する健康、そして少女の権利に関する繊細な問題が浮かび上がりました。



「私たちの土地、私たちの誇り」

19歳のブン族の少女は、水彩画と油絵の具を混ぜ合わせて、先住民のアイデンティティを他者に対して表現しました。彼女の芸術作品は、先祖代々の故郷に住む友人たちが、自分たちの領土を守り、故郷が緑に溢れ、自然で、そして永遠に健康な状態であるように協力している様子を描いています。

興味深いことに、社会のより広いレベルで優勢になりがちな、より明白な問題のほかに、少女たち自身のコミュニティ内の力学も表面化しました。多くの場合、少数派の地域共同体に住む少女たちは、主流の社会から孤立しているだけでなく、自分たちの地域共同体の中で声を上げることに困難を抱えていたのです。



原爆被爆者に関するオンライン展示と 冊子

山根和代

ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を 継承する会理事

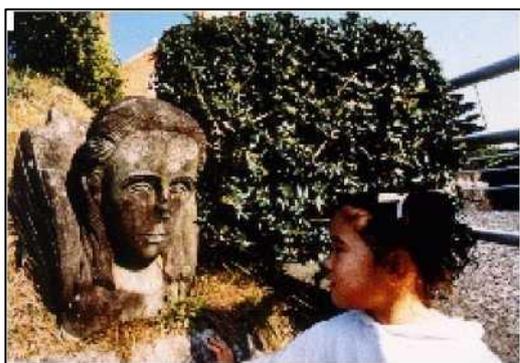
2022年1月20日、『原子力科学者会報』は、終末時計が「午前〇時 100 秒」にとどまり、世界がこれまでで最も終末に近づいたと発表しました。そんな中、2022年6月21日から23日にかけて、オーストリアのウィーンで「核兵器禁止条約第1回締約国会議」が開催されました。ウィーン宣言では、TPNWを支える道徳的・倫理的要請が示されました。それは、“核兵器の壊滅的な人道的結果”は、“生きる権利の尊重と相容れない”と述べています。

(<https://icanw.org.au/overview-vienna-declaration-and-action-plan/>)

核兵器がもたらす壊滅的な人道的影響について教育する2つの重要なオンライン資料があります。

1. ウェブ・ギャラリー：日本被団協のウェブサイトにある「原爆と人間展」

(<https://www.ne.jp/asahi/hidankyo/nihon/english/webgallery/01.html>) 日本被団協が制作したパネル展示「原爆と人間」。「原爆と人間」は、被爆者の写真や絵、証言など40枚のパネルで構成されています。日本被団協は、「原爆と人間」が国内外に広く展示され、核兵器廃絶の世論喚起の一助となることを願っています。英語、フランス語、ロシア語、イタリア語、ドイツ語の翻訳版テキストがあります。



Statue of Angel in Ura mi Cathedral, Nagasaki
Photo: Haruo Kurosa ki

長崎・浦上天主堂の天使の像撮影：黒崎晴生

2. 「ヒバクシャからあなたへ。私たちが伝えたいこと」(英語版)を公開しました。ぜひご一読ください。

被爆者は、これ以上被爆者を増やしてはならないとの思いから、自らの体験により心身を痛めながらも、原爆の実相と後遺症を世界に明らかにしています。核兵器のない世界を目指す被爆者は、次のようなメッセージを後世に伝えたいと考えています。

このドキュメントの構成は以下の通りです。I. 原爆が人類にもたらしたもの。II. 二度とヒバクシャ(原爆犠牲者)を作らないために。日本被団協の運動の歩み。III. 核兵器も戦争もない世界へ-核時代の克服と人間の生き方-。日本被団協の歴史年表。(岩波書店発行、岩波ブックレット1048号、2021年7月発行)。

下記のサイトをクリックしてお読みください。

https://www.ne.jp/asahi/hidankyo/nihon/english/weapons/pdf/from_hibakusha_to_you.pdf



片岡修がデザインした日本被団協のロゴマーク。折鶴は永遠の平和を、楕円は人々の心の一体化を意味する「和」を表現しています。



この断絶は、しばしば少女たち自身の対話によって概念化され、その後の1年間の芸術活動に統合されました。少数民族の少女たちが概念芸術を使って最も内側にある考えや感情を共有するために、平和のための芸術の学習過程が開発され、地域社会で試験的に実施されたのです。その結果、複数の芸術様式を用いた作品が生まれ、深い洞察を共有することができました。芸術作品を生み出したのは、母国語を十分に使えないことを恥ずかしく思っていた先住民の少女たち、浮き輪村(編集者注：ドラム缶を浮き輪代わりにした水上ハウス)で孤立したままで、明確な法的身分証明書や文書を持っていないために、国内の学校に通うことができない無国籍のベトナム人少女たち、自分たちの伝統に誇りを持ちながらも、自分たちの地域共同体で発言することができないと感じていたイスラム教徒の少女たち、家庭での家事の責任を負わされているために、本当の意味での夢を持つことができないと感じていたクメール・クロムの少女たちでした。



「浮かびながら向かっていく」

トンレサップ川の水上集落でボートに乗って暮らすベトナム民族の思春期の少女が、「素敵なドレスを着て、快適な家を持って、友達と誕生日のケーキを食べたい」という最も身近な夢を油絵具で表現した作品です。下のホティアオイと魚は、彼女が住む水上家屋の下での生活を表現しており、それは彼女の生活の基本にもなっています。上部の星と太陽は希望の象徴として描かれており、その希望のおかげで彼女は夢に向かって浮かびながら空を見上げ続けていることができるのです。

ル・センは、「女性の平和構築者たち」というカンボジアの非政府組織で勤務するジェンダーと少数民族についての専門家です。この団体はジェンダーと平和構築の両方が関わっている問題に取り組んでいます。彼女は最近、研究、芸術、支持を通じてカンボジアの少数民族の少女が声を上げられるようにする活動を紹介した『場を作る』“Making the Space”という書籍を共著で出版しました。

写真はこちらです。

<https://drive.google.com/drive/folders/1lKYCX6SEFrjK010pQkm8faApy34maMjM>



「先祖について伝える」

カンボンチュナン州に住む15歳の伝統的なチャム族の少女が、伝統、文化、イスラム教の信仰を通して自分のアイデンティティを示すために水彩絵の具で描いた作品です。この絵の少女は、金曜日にチャム族の珍味の入った盆をモスクに運ぶ準備をしています。通常、金曜日には女性は食べ物を運び、男性の年長者は祈りを捧げます。

この伝統は、何世紀にもわたり、世代を超えて受け継がれてきました。この作品を描いた少女は、自分の民族的、宗教的アイデンティティに深い誇りを持ち、チャム族をよく知らない人たちにもその習慣を伝えたいと願っているのです。

芸術作品制作の後、地域共同体でその村の長老たちや制作者の家族、一般住民を集めて期間限定展が開催されました。この展示の場は、少女たちが自分たちの必要とするものや希望を自分の地域共同体に対して創造的に表現する機会を与えてくれました。芸術は、少女たちが声を上げるための力強い背景となったのです。その後、作品は首都で主要な関係者や一般市民に向けて展示されましたが、芸術を通しての地域共同体での対話の過程は、実際、少女たちにとって生活の中で最も大切な人たちと共にすぐに直接影響を与えることになったのです。芸術のための空間は、それを展示するだけでなく、平和を育む場所にもなり得るのです。現在、平和のための場を作ることは、暴力的な紛争の不正義と、あらゆるレベルでの平和の可能性を示すという共通の願いのもと、私たち全員が熱意を持って取り組むことができることなのです。

ル・センは、ジェンダーと平和構築の交差点で活動するカンボジアのNGO、ウーマンピースメーカーズでジェンダーとマイノリティの専門家として活躍しています。最近、研究、芸術、アドボカシーを通じてカンボジアの少数民族の少女の声を上げる「Making the Space」を共著で出版しました。

(翻訳：赤松敦子)

デシデリウス・エラスムス 「戦争は経験のない者にとって は甘いものだ...」-暴力と戦争 に対する抗議行動

クリスチャン・バートルフ
ドミニク・ミーティング
CHRISTIAN BARTOLF & DOMINIQUE
MIETHING

地球上で繰り返されている数々の戦争に鑑み、ドイツ・ベルリン自由大学図書館が発行した「非暴力抵抗の歴史に関する展覧会」という新しい出版シリーズを紹介する。本書は、筆者であるクリスチャン・バートルフ博士(ベルリン・ガンジー情報センター所長)とドミニク・ミーティング博士(ベルリン自由大学政治社会学部)が編集を担当した。

伝統的に昔から、著名な人々は、文学や科学を通して、平和、自由、正義、平等の新しい考えを發展させてきた。これらは市民教育にとって歴史的な意義を持つだけでなく、芸術、経済、教育学、哲学、政治、法律は概念上に築かれる倫理的規範を生み出す。今回の展示の中核は、非暴力による抵抗の歴史なのである。シリーズの第一回目は「デシデリウス・エラスムス『戦争は経験のない者にとっては甘いものだ.....』暴力と戦争への抗議戦争に反対する彼の著作を記念して『Dulce bellum inexpertis (1515年)』と『Querela pacis (1516年)』J. 本書(ISBN: 978-3-96110-441-3)は、こちらのウェブサイトからPDFを無料で閲覧することもできる。

<https://dx.doi.org/10.17169/refubium-34942>

また、展示パネル一式を世界中のどこでも展示することも可能である。

本展は、人文主義者で平和主義者であり、『ユートピア』(1516年)の著者トマス・モア(1478-1535年)の親友であったデシデリウス・エラスムス(1466年頃-1536年)に捧げられたものである。

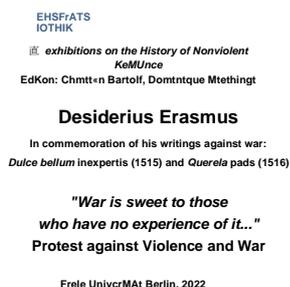
「征服側であるエラスムスが、この地で名声を得たのは、文学の世界で人文主義的理想の道を切り開いたからである。すなわち、より人間らしく、より精神的に、共感し、精神的な理解能力を高めることを追求するのは人類の最上の義務である、という最もシンプル⁴³で不朽の考えがもたらされたのは彼のおかげである。

スチラーは世界市民としてのメッセージに詩的な装飾を加え、カントは永遠の平和を要求し、トルストイの時代に至るまで、そして現在ではガンジーやロマン・ロランによって、この同じ理想が論理的な力をもって繰り返し唱えられ、理解する精神は権威と暴力の法に対する激しい反発として、その倫理と道徳の権利を主張してきた。(Stefan Zweig: Erasmus of Rotterdam. New York: 1934. pp.245f.).

作家シュテファン・ツヴァイク(1881-1942)が

「エラスムスの遺産」について語ったこの言葉は、オランダの哲学者が古典古代のアダージア(格言)を解釈したことに言及したものである。エラスムスの解釈は、エッセイや反論といった近代文学の形式を確立した。

フランスの思想家エティエンヌ・ド・ラボエティ(1530-1563)とミシェル・ド・ラ・モンテーニュ(1533-1592)は、この独自の思想表現を受け継ぎ、知的創造力を発揮した。彼らは、宗教的権威からの知的・精神的解放を実現し、批判的啓蒙を促した。学校や大学における市民教育や政治哲学は、世界的な「平和の文化」(国連)の倫理原則に従うよう努力しなければならない。



私たちの展覧会は、ロッテルダムのエラスムスやアルベルト・シュバイツァー博士のようなヒューマニストや戦争反対派の声を伝えている。

(翻訳: 狩俣英美)

クリスチャン・バートルフ博士: 作家、講演者、ガンジー情報センター(ベルリン)代表。ドミニク・ミーティング博士: ベルリン自由大学市民教育・政治思想史講師。

『核兵器をなくすと世界が決めた日』川崎哲 [監修・解説]

AN EDUCATIONAL ACTIVITY FOR
PEACE DAY:
#KIDSDRAWPEACE4UKRAINE

高橋真樹、岩崎由美子 [文]

TOTO [絵]

核兵器をなくすと
世界が決めた日

2017年に国連で採択され、2021年に50か国の批准で発効した核兵器禁止条約。この絵本は、核保有国の反対をはねのけ、被ばく者の声と市民の世界的な連帯が生み出した

画期的なこの条約を物語で伝えます。また、広島、長崎だけでなく、世界中の核被害者にもスポットライトを当てているのも特徴です。

本書はノーベル平和賞を受賞したICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）の中心メンバー・川崎哲氏が監修・解説。実際にキャンペーンに関与した人々の協働作業によって生まれた絵本です。ウクライナ危機でふたたび核戦争が現実の可能性として語られる今、平和を願う世界の人々が力を合わせれば核兵器をなくせるという希望のメッセージを子どもたちに届けます。

書籍詳細

『核兵器をなくすと世界が決めた日』

川崎哲 [監修・解説] 高橋真樹、岩崎由美子 [文]

TOTO [絵]

出版社大月書店

出版年月日 2022/07/22

ISBN 9784272211272

判型・ページ数 A4変.40ページ

定価 1,760円(本体 1,600円+税)

出版社の紹介ページ

<http://www.otsukishoten.co.jp/book/b606941.html>

お問い合わせは iwashita@otsukishoten.co.jp

Draw peace
for Ukraine21 SEPTEMBER
INTERNATIONAL
DAY OF

婦

#KidsDrawPeace4Ukraine

平和の日の教育活動

国際平和デー(9月21日)を前に、世界の平和博物館は、子どもたちがウクライナの子どもたちのことを忘れていないことを示すのに役立ちます。これは、子どもたちがウクライナへの平和と希望のメッセージを描くというものです。そして、博物館のスタッフが

「#KidsDrawPeace4Ukraine」のハッシュタグを付けて、その絵をソーシャルメディアに投稿します。

子どもたちは、アーティストから寄贈されたさまざまなグラフィックボーダーを選ぶことができ、すべてこのリンクからダウンロードできます。この活動は1時間以内に終了する予定です。

このプロジェクトは、フランスに拠点を置く非営利団体 Global Youth & News Media が主催し、パリのウクライナ大使館が後援するプロジェクトの第3段階であり、このアートがウクライナ人に確実に届くよう支援するものです。それ以前の段階では、子ども向けニュースの編集者やウクライナ難民を受け入れている学校での取り組みが求められていました。

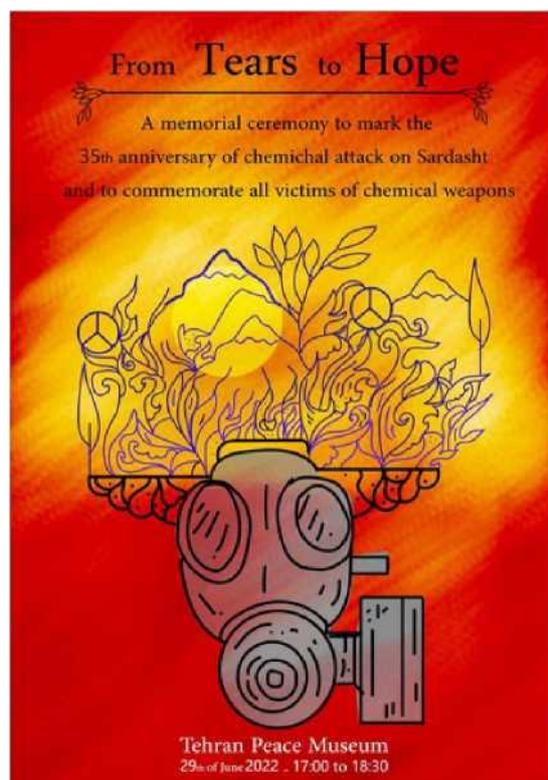
プロジェクトの詳細については、こちらのウェブサイトをご覧ください。Global Youth & News Media は、広報用の画像も提供することができます。

お問い合わせ先 info@youthandnewsmedia.net

涙から希望へ

ベーナズ・モンファレド・ニッカー
BEHNAZ MONFARED NIKKHAH

6月29日、テヘラン平和博物館において、サルダシュトへの化学兵器攻撃35周年を記念し、化学兵器のすべての犠牲者を追悼する式典が開催されました。このテーマは、戦争の結果に苦しみ、都市と12000人の市民がガスによって残酷に爆撃されるのを目撃し、硫黄マスタード被曝の長期的影響に今も対処しているサルダシュトの気骨のある市民を称えるものです。サルダシュトが化学兵器による最初の爆撃を受けた都市となったという苦い事実にもかかわらず、人々はこの災害から大量破壊兵器のない世界への希望と新たな情熱を育んだのです。この反省の時間では、参加者は生存者と話をし、彼らが語る実体験に耳を傾け、戦争反対を広めるために多くの活動が行われている雰囲気味わうことができます。児童や青少年は、博物館のガイドの多くが化学兵器の生存者であることに感銘を受け、意欲を持つようになります。生徒や若者たちは、戦争体験者のガイドに会うことで、感動し、やる気を起こします。彼らは、痛みを耐え忍び、希望を持ち続ける真のヒーローやヒロインの例について見識を深めます。また、副次的なイベントとして、参加者は博物館近くの公園内にある平和記念碑に花を捧げ、化学兵器の犠牲者に敬意を表しました。



Poster designed by Behnaz Monfared Nikkaha

